

岩手県 グループホーム サンフラワー

(部分は外部評価との共通評価項目です)

自 己 評 価 票

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	法人基本理念・GH事業推進目標を理解し、職員間で共通の認識を持った上で具現化できるよう取り組んでいる。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念をスタッフルームに掲示し、違和感なく自然に目に入るよう工夫している。日々のケアを通じて理念に照らした課題を検討し合い、理念の共有とケアの転換を図っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	広報誌や家族への手紙、家族懇談会の機会を通じ、理念に基づいた現場での具体的な実践を伝え、理解を深めてもらえるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	買出しでスーパーに出かけたり近くの公園を散歩したり理・美容室に行く折に、地区内の人たちと挨拶を交わしたり「遊びに来てください」と声をかけるよう努めています。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域自治会に加入し、地域の行事や活動などにも可能な限り参加している。また地域子供会との心とむ交流も行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々とは行事や活動を通じて交流に努めているが、地域貢献の方法に関しての話し合いには至っていない。	○	地区内の老人クラブや各種の集まりの場を借りてグループホームの役割や日常の実践内容を伝え地域の方々にグループホームに関する理解や関係を深め、地域のニーズを引き出す努力をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	より良いグループホームづくりのために改善していくべき点を自分たちでも洗い出し、ケアの質的向上をめざすという評価の意義を理解し、日々取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し利用者の状況、活動状況等を報告し委員からの率直な意見や助言を頂き、自分たちが提供しているケアの見直しに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは運営推進会議の中で施設で直面している課題や解らない事などを積極的に相談しているが、今後は随時出向いたり電話などで相談するよう努めていく。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	施設内研修を通じて学ぶ機会は持ったが全職員の周知には至っていない。	○	今後利用者に制度利用が生じたときに備えてすべての職員が当該制度を学ぶ機会を設けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待といった人権無視のケアはあってはならないことと認識し、業務の中で些細であっても不適切と思われるケアを放置せず注意をしあうほか、カンファレンスのなかで自分に置き換えてケアを見直す取り組みをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解除の際は、相手の立場に立って不安や疑問な点を表せるような働きかけと説明を行い、納得をされたうえで手続きを始める等の配慮に努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々接する中で自らの苦情や不満を表に出しやすい雰囲気づくりに努めるほか、ご家族を介して不満や苦情を入手し、個々人のニーズにあった支援を実施している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族が来所された折に日々の暮らしぶりや健康状態についてお知らせしている。また2ヶ月ごとに利用者の最近の様子や健康状態、本人からの伝言と写真のほか、確認済みの小遣い出納簿の写しと領収書の原本を添えてご家族に送付している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱や苦情相談の窓口を設置し、寄せられた苦情に的確に対応しサービスの質の向上に結びつける取り組みとして苦情内容を分析し、組織的に対応していく体制がとられている。また懇談会を通じてご家族からの意見や要望を聞いて日々の運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やカンファレンスの中で現場の実情や課題などを出し合い解決に向けての意見交換を行っている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	随時職員間で話し合い利用者の身体状況や業務内容の変化に応じ適切な職員配置や勤務体制の確保を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職があった場合は必要最小限に抑え、移動や離職が止むを得ない場合は認知症ケアの経験者を配置し、利用者の生活の継続性が維持されるよう取り組んでいく。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを意図的・計画的に行うため、スキルチェックにより職員個々の得手・不得手を確認し、各自目標を持って研修に取り組む機会を設けている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会沿岸北ブロックに参加し、技術や知識の習得のみならず時には職員交流の場として外での研修機会がよい刺激となっているほか、他事業所を訪問し苦労話や工夫等の情報交換を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が仕事の意義とやりがいを感じあえる職場の雰囲気づくり、組織内の風通しをよくし職員間で何事も相談しあえる関係づくりに努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者と従業員の個別面談を通じて、自己啓発活動状況やメンタル面での課題等を把握している。また、自ら積極的に研修活動ができるよう経済的な援助ができる制度を整備している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	可能な限り自宅訪問をお願いし、聞き取り調査だけでは知る事のできないより自然な利用者の本来の表情や家族との関係を見ることができ、その人らしい生活や思いを感じ取り利用者にとっての入所の納得につなげていく。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談を重ねこれからはじまるグループホームでの生活やケアの方針についてできるだけ詳しく説明し、家族にイメージしてもらおう。そして家族の戸惑う点や要望等に耳を傾け関係をつくる事に努めていく。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所としてできる限り対応に努め、必要に応じてサービス利用の調整を行っていく。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前のかかりつけ医やケアマネからの情報収集やご家族からの聞き取りからヒントを得ながら、本人の生活ペースは変えずに緊張感や気分を和らげる関わりの実践に取り組んでいる。	○	ご本人、ご家族、実際にケアに関わったスタッフと連携を図り、利用前に数回の事前訪問を呼びかけ職員や利用者と一緒に馴染んでもらうなどサービスとの出会いに時間と手間を掛けていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は生活の知恵の宝庫であり学ぶ事が多く、家事や畑作業等の中で一緒に時間を過ごし、利用者職員は持ちつ持たれつの相互の存在を支え合う関係を築く日々を過ごしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は積極的に行う他、行事等の参加を呼びかけ家族にもお手伝いをお願いするなど、共に暮らしをつくる取り組みを行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	可能な限りそれぞれの家族関係を理解し、行事への参加や面会時に楽しい時間を過ごしてもらおうよう計らい、利用者家族の本来の表情が見られ良い関係が生まれるような取り組みをしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同窓会への出席、ご友人へ手紙やご面会のお願い、またこちらから出かけたり等の取り組みをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの性格や認知レベルに配慮したり、利用者間の関係の理解にも努め、利用者同士がかかわり合えるよう職員が橋渡し役に徹している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も相談があればいつでも応じていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の話に耳を傾けるという職員の態度で信頼関係をつくり、そうした過程において思いや意向を明らかにしていく。また生活に対しての意向を継続的に確認していき、思いや意向を共有している。意思表示の困難な利用者については職員がその思いを感じ取ったり気づいていく努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のなにげない利用者の話しに根気よく耳を傾けることで、家族ですら知らなかったことを話してくれることもあり、その後のケアのヒントになったりするなど、本人なりに築いてきたなじみの暮らしを継続できるよう「昔とった杵柄シート」をもとに把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は利用者と同じ時間を一緒に過ごし、その中でどのようなことができどのようなことができないのかを「私時間の過ごし方」「私のできることできないことシート」をもとに、有する能力や身体状況を的確に把握していくよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の要望や意見を十分取り入れ、担当職員からのケアプランにつながる全ての情報収集をもとに、介護支援専門員がケアプランの原案を作成し、サービス担当者会議の中で本人の可能性や生きがいに照らした話し合いを行い決定している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月ごとのモニタリング評価・記録表による見直しを行い、利用者の状態変化が大きい場合や、生活ニーズが急激に変化した場合等はご家族に明確に説明したうえで、手順に従い再アセスメントを行い、本人とご家族の意向を反映した新たなケアプランを作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に日々の支援内容を記録しているほかに気づきメモを、「連絡帳」にて共有し、そこから支援課題が見えてくることもあり、必要であれば再アセスメントの実施ということになります。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族が付き添いできない場合の受診や買い物等の外出支援、ご家族の宿泊など一人ひとりの思いや要望に合わせて柔軟な対応に努めている。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	「おやつ作り」「詩吟の会」「神社仏閣のお話し」等ボランティアの力を借りて協力しながら支援している。また小学校の行事に出向いたり高校生のコンサートを受け入れたり相互に協力しながら支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は他のサービスは活用していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実績はない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院への受診の際は、主治医へ利用者の心身状況を詳しく説明し、情報共有に努めている。また利用者の健康相談や対応方法などのアドバイスを受ける等、健康管理に関する正しい知識の把握に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳が守られるよう敬意を持った言葉遣いや態度で接している。個々のケース記録等は他者の目に触れない場所に保管しイニシャルで表示している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の適切な声かけと誘導で一人ひとりの意思決定を導き出し、本人の慣れ親しんだ過ごし方や希望を知り取り組んでいる。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、それに縛られないで個々の意思決定を支えながら本人の希望や思い思いの一日を過ごしてもらっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の好む髪型や服装にしている。化粧品なども一緒に出かけ自分で選んで頂き購入している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意分野を最大限に活かしながら買い物、食事の準備から調理、後片付け等を行いお互いの料理をほめながら楽しい雰囲気になるよう心がけている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好品等を把握し、日常的に楽しんでもらえるよう欠かさないようにしている。おやつは利用者が選択出来る様用意してある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを把握し、排泄の誘導を確実化することで失敗の回数を減らす事ができている。また排泄用品は昼夜、外出時、季節に応じて使い分けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夕食後から就寝前に入浴していただき、安眠できるよう取り組んでいる。利用者の要望し応じ入浴回数を増やしたり入浴剤に変化をつけるなど楽しめるよう努めている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その時々状況に応じてベッドで休んでいただいたり、リビングのソファや庭のベンチなど何処でも休んでいただけるようにしている。十分な睡眠の確保のため、日中はできるだけ体を動かしてもらったり外気に触れる等の取り組みをしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	どんな些細な事からでも一人ひとりの得意分野を活かした役割づくりをケアプランに盛り込み、存分に発揮できる出番をいっぱいつくって職員は感謝の気持ちを伝えている。季節の行事や誕生会、ドライブや散歩、地域の行事への参加等気晴らしが出来るよう努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しい方が多く、職員が管理しているが買い物の際は個々の財布を持って出かけ、職員の見守りで利用者が支払う機会をつくっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や、散歩を兼ねて地域公園の清掃活動や買出し、行楽やイベントの出先で外食を楽しむ機会等をつくっている。体調や状況によって出かけられない利用者は、庭や施設周辺への散歩等で気分転換を図っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	子供の頃にお祭りのあった神社巡りや、小学校の二ノ宮金次郎を見に出かけたり、夏の海や秋祭りに出かけるなど一人ひとりの希望を把握し取り組んでいるほか、家族とお墓参りをして頂いたり家族と出かけられるよう支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により取次ぐ等、いつでも自由に電話を使用出来るようにしているほか、2ヶ月ごとに近況報告とともに本人から家族に伝えたい事を書いていただき送付している。遠方の娘や孫からの手紙に返事が出来るよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも自由に面会や宿泊できるように呼びかけている。訪問された時は居室、リビング、座敷等楽しく過ごして頂ける環境づくりに努めている。また馴染みの利用者がお茶を出しお客様のおもてなしをしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修で身体拘束に該当する具体的な行為や、その行為による弊害を理解し、利用者に対する尊厳といった人権感覚を身に付け法人全体で身体拘束ゼロに向けた取り組みをしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	来客等の出入りの確認のためセンサーは設置しているが、日中施錠しないことを基本に開放し、自由に出入りできるようにしている。また居室に施錠している利用者もいない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は定時チェック表を活用し、利用者の所在確認の強化を図っている。夜間は1時間ごとの巡視により利用者の様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な薬や洗剤等はクローゼットや押入れなど利用者の目に触れない場所に保管している。刃物の出し入れ、持ち運び、洗浄は職員が行い利用者には使用時のみに徹底している。またガラスコップ類の洗浄も利用者にはさせないよう取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人ひとりの状態を把握し、起こりうるリスクを見極めケアプランに盛り込んで事故防止に向け取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに基づいた手順や方法を周知徹底し、事故発生時に活かされるよう訓練の機会を持っていく。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月毎に避難訓練を実施している。また同法人職員や地域内に住む職員等による緊急時の協力体制ができています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者に起こりうるリスクを見極め、回避する為のケアプラン原案を家族に説明し一緒に検討して頂き、同意を得たうえで安全・安心に暮らせる取り組みを行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者と一緒に時間を過ごす中で職員はいつもと違う異変に早く気づきバイタル測定を行い、気になるようならすぐに病院に連れて行く。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服している薬情報を個々のケースファイルで把握できるようにしてある。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	バランス良くしっかり食べて水分を十分に摂ることに力を入れ、日中は軽い疲労をおぼえる程度に活動していただき快眠につなげる等、生活環境を整えることにより便秘を防ぐ取り組みをしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄の声がけでしっかりと磨いていただいている。義歯だけでなく歯茎や舌などもブラッシングしてもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況については毎日チェックし記録している。また利用者の嚥下状況や食習慣に応じて、粥食や食材によっては粗刻みにする等配慮している。カロリーや栄養バランスに関しては同法人内の栄養士の指導やアドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルに従い実行し、予防接種や外出時後の手洗いと消毒、うがいを積極的に行うよう支援しているほか訪問者にも手指消毒やマスク着用をお願いしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用したまな板、ふきん等は塩素系漂白剤で殺菌消毒を行い、食器類は洗浄後に乾燥機にて60分間熱消毒を行っている。まな板は肉魚専用と分けて使用している。その日のメニューに合わせて食材を買い調理している。直接口に入る食材の調理時はディスポを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節を彩る花を植え、日中は訪問者が自由に出入りできるようにしている。また利用者が履物を履く際、ふらつきから転倒を招かないよう安定した椅子を配置している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭から採ってきた季節の花や植物を玄関や食卓、洗面所に飾り季節感を大事にした環境づくりに心がけている。リビングからは家庭菜園が眺められ、自由に出入りし外気や自然と触れ合える心和む環境である。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにはソファや畳部屋と思いに過ごせるよう配置してある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品、ダンスや時計、衣類やぬいぐるみ、アルバム、テレビやラジオなど馴染みのものが持ち込まれている。また家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせるようにしている。また気がかりなことを繰り返し訴える利用者の部屋には「安心してください」シートを貼り、不安を取り除く工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室全フロアが床暖となっており、随時の換気と扇風機併用し室温調整に努めている。また乾燥時期には加湿器使用している。トイレは常時換気し館内、居室には換気グリルを設置してある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手すりが取り付けられ、全バリアフリーで安全に歩行でき、浴室浴槽には滑り止めや入浴グリップを設置し自力で安全に入浴できるよう努めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	部屋を間違えやすい利用者の居室前には、目印として本人馴染みのものを取り付けている。居室のカレンダーには過ぎた日にちに印をつけて、今日が何日かわかるよう工夫している。リビングには日めくりカレンダーを利用者に担ってもらう等、役立ち感の支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のプランターには季節の花、花壇には季節の花、庭には季節の野菜や花を日常的に楽しんで作業や鑑賞できるよう取り組んでもらうほか、作業の合間に休憩できるベンチを置いている。洗濯物干しや取り込む際も利用者ができる高さを心がけている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

周囲には小中学校、行きつけのスーパーや公園があり地域社会とのつながりをつくりやすい恵まれた立地条件の中に建つホーム内には、いつも懐かしい歌と笑顔が絶えません。開所して10ヶ月、地域の方々が認知症について理解し、お年寄りを見かけたら声をかけてくれたり、お手伝いをしますよと言う気持ちを持っていただけるよう利用者や職員の思いを形にして今、散歩をかねて公園や沿道の落ち葉やゴミの清掃活動に取り組んでいます。